

2026年2月26日

各 位

旭化成株式会社
Veloxis Pharmaceuticals, Inc.

ドイツの医薬品開発企業 Aicuris を買収
—重症感染症領域のパイプライン拡充によって医薬事業の成長を加速—

旭化成株式会社（本社：東京都千代田区、社長：工藤 幸四郎、以下「当社」）の米国子会社である Veloxis Pharmaceuticals, Inc.（本社：米国ノースカロライナ州、CEO：Stacy Wheeler、以下「Veloxis」）は、ドイツの医薬品開発企業である Aicuris Anti-infective Cures AG（本社：ドイツ・ヴッパータール、CEO：Larry Edwards、以下「Aicuris（アイキュリス）」）の全株式を取得することを合意し、契約を締結しました。本契約により、当社の医薬事業は、重症感染症領域へと拡大されることで、グローバルスペシャリティファーマとしての成長基盤をいっそう強固なものにします。

今後必要な法的諸手続きを経て、2026年度第1四半期中の買収完了を目指しています。Aicuris の発行済み株式等を取得するための対価として約 780 百万ユーロ（約 1,431 億円[※]）を支払う予定です。本決定による 2026年3月期の連結業績予想に変更はありません。なお、のれんおよび買収に係る無形固定資産の償却後の営業利益は 2028 年度以降に黒字化を見込んでいます。

※1 ユーロ=183.5 円（日本時間 2 月 25 日付為替レート）で換算

1. 買収の目的

当社グループは、2025 年度からスタートした『[中期経営計画 2027 ～Trailblaze Together～](#)』において、医薬事業を、中期的な利益成長に向けて積極的な投資を進める「重点成長」事業と位置付けています。

Aicuris の買収により、重症感染症に対する開発パイプラインを獲得します。これにより、既存重点領域である移植・免疫領域における感染合併症への対応力をいっそう強化します。移植後など免疫機能が低下した患者は、軽微な感染を契機に重症化しやすく、感染合併症は依然として臨床現場における重要な課題となっています。こうしたアンメットメディカルニーズに対し、当社の医薬事業における Veloxis（移植領域）および Calliditas（腎臓領域）の戦略は高い親和性を有しています。今後は、米国の移植施設チャネルや腎臓領域ネットワークを含む確立された営業基盤と高度な研究開発力を活用し、Aicuris のパイプラインの開発および商業化を加速していきます。これにより、同パイプラインの価値最大化を図るとともに、当社が目指す医薬事業の持続的な成長基盤の確立に向けて大きく前進します。

旭化成株式会社 ヘルスケア領域長 四ノ宮 健 コメント

「重症感染症領域は、当社がすでにプレゼンスを持つ分野での事業拡大機会であり、当社戦略とも高い整合性を有しています。こうした認識のもと、市場機会を的確に捉え、厳格な投資規律に基づきながらも機動的に本買収を実行しました。本買収により、自己免疫・腎・移植・重症感染症といった相互に関連する重点領域における当社のポジションを強化するとともに、重症感染症領域における魅力的なパイプラインの拡充を図ります。これにより、グローバルスペシャリティファーマの事業基盤確立に向けた戦略を一段と加速します。当社の医薬事業は、2030 年度には安定的な研究開発投資を実現できる事業基盤として、売上高 3,000 億円（営業利益 15%以上）達成を目指しています。さらなる当社グループの持続的な成長と企業価値の最大化を実現してまいります。」

2. Aicuris の概要

- (1) 社名 : Aicuris Anti-infective Cures AG
- (2) 所在地 : ドイツ・ヴッパータール
- (3) 代表者 : Larry Edwards, Chief Executive Officer
- (4) 設立 : 2006 年
- (5) 従業員数 : 約 70 名
- (6) 売上高 : 132 百万ユーロ (約 148 百万米ドル) 2025 年

3. Aicuris のパイプライン

	薬剤名／作用機序	対象疾患	特徴	ステージ
(1)	Prevymis® (プレバイミス) / CMV※1 ターミナーゼ阻害	移植患者におけるサイトメガロウイルス感染予防	創製企業としてのロイヤルティー収益基盤	Merck & Co.へ導出(米国・カナダ以外はMSD)
(2)	pritelivir (プリテリビル) / HSV※2 ヘリカーゼ・プリマーゼ阻害	免疫不全患者におけるアシクロビル耐性を示す単純ヘルペスウイルス感染治療	HSV 向け新規機序の経口薬	Phase III 終了(2026 年度米国承認目標)
(3)	AIC468 / mRNA スプライシング阻害	腎移植患者における BKV※3 感染治療	腎移植後 BKV を標的とする核酸医薬 ASO※4	Phase I 終了(2030 年前後上市目標)

※1 CMV : Cytomegalovirus (サイトメガロウイルス)

※2 HSV : Herpes Simplex Virus (単純ヘルペスウイルス)

※3 BKV : BK Virus (BK ウイルス)

※4 ASO : Antisense Oligonucleotide (アンチセンス オリゴヌクレオチド)

pritelivir は、当社にとって重要な足元の収益貢献ドライバーと位置付けており、免疫不全患者の難治性 HSV 感染症を対象とした国際第 III 相試験で主要評価項目を達成しました。本領域は当社の既存の強みを活かし、高い販売ポテンシャルが期待される専門領域です。Veloxis および Calliditas が専門医療機関に対して築き上げた強固なネットワークは、免疫不

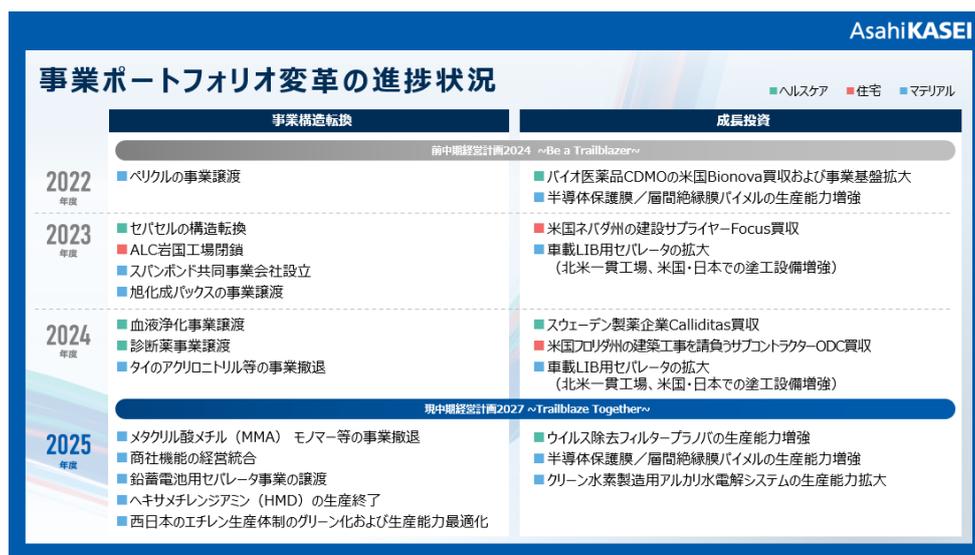
全を伴う HSV 感染症患者へのアクセスにおいて極めて有効な基盤となります。この既存の商業インフラを活用し、最適な普及促進が可能と見込んでいます。

AIC468 は、腎移植患者における BKV 感染症の治療薬として開発中であり、第 I 相試験における安全性および薬物動態の初期データが学会で報告されています。本剤は、当社の移植と腎疾患ネットワークと高い親和性を有しています。BKV 感染症は依然として移植後の重大合併症の一つであり、承認された治療選択肢は限られています。当社は、米国における医薬事業基盤を活用することで、上市に向けた開発・商業化を効率的に推進できる体制を有しています。BKV 治療薬市場は、世界的な腎移植件数の増加を背景に成長が期待されています。

このように早期から後期開発段階において将来の成長を支えるパイプラインを有しており、当社の既存事業と組み合わせることで、移植後の免疫抑制管理から難治性感染治療まで、治療全体をカバーするソリューションの提供体制の構築を進めていきます。買収後は Prevmis のロイヤルティー収入に加え、2026 年度に承認取得を目指している pritelivir の売上拡大により早期の収益貢献が期待されます。さらに、AIC468 の長期的な成長ポテンシャルが加わることで、当社医薬事業の収益の持続性と中長期的な利益率向上を支える多層的な成長プロファイルの実現を目指します。

(ご参考) 当社グループの事業ポートフォリオ変革について

当社は『中期経営計画 2027 ~Trailblaze Together~』のもと、資本効率の改善と投資成果創出による利益成長を目指しています。この方針に基づき、ベストオーナー視点での改革や他社連携も含めた事業構造転換と経営資源の再配分を進めています。さらに、成長分野と位置づけた事業へのさらなる投資を通じて、企業価値の向上を図ってまいります。



以上